

(会務報告…帝展改組への対応)

(35)

(十一月二十三日 報告)

帝国美術院機構改正問題等にも関連して、丁度東京の展覧会の終了した機会もあるから、会の内輪の会合は必要ではないかと小杉氏から申越されましたが、今は会務委員に旅行中の者も多く、直ぐ打合せ相談する便宜を欠きましたし、小杉氏は明二十九日赤倉へ旅立ち、六月十日頃迄滞在すると云ふことですから、差し当つての考へとしては、その小杉氏の帰京頃を計つて、一同の会合をするのがよからうと思ひました。小杉氏にもさう答へました。

東京展の経過報告なども略^{あらいまし}まとめられますし、兼ねて小杉氏からの帝国美術院問題経緯も聞けますから、六月上旬に、一会するのがよいと思ひます。

以上

不在委員多き場合臨機に考へたところを御報告迄 (木村生)

会員 会友 殿

昭和十年十一月二十三日

春陽会

○
名古屋展会務は順調に進行してゐます。荷はずでに包装しました。六月十日には会員は水谷清君が先発します。

昭和十年五月廿八日

春陽会